

メルボルン出張報告

出張の目的

1. 寄贈 25 点の日本画の常設展示に向けた各関係機関との交渉
2. 現地協力者たちとの交流
3. 寄贈 25 点の日本画の保存状態の肉眼による確認
4. 松岡朝賞の授与
5. 在豪メディアとのコンタクト

メルボルンについて

“ヴィクトリア州の首都メルボルンはオーストラリアの第 2 の都市。1800 年代後半建造の重厚な建物に街の中心を流れる川、そして刺激的なカルチャーシーンから「南半球のロンドン」と呼ばれている。

（中略）トラム（市電）が市民の足として現役で活躍しており、（中略）観光客はもちろん、オフィスで働く人も愛用している。世界遺産である王立展示館を筆頭に歴史ある建築にも注目。”（まっぷるオーストラリア 2013 年版より抜粋）

オーストラリアの商業の中心はシドニーだが、文化、芸術の中心はメルボルンである。共に人口は 450 万人。

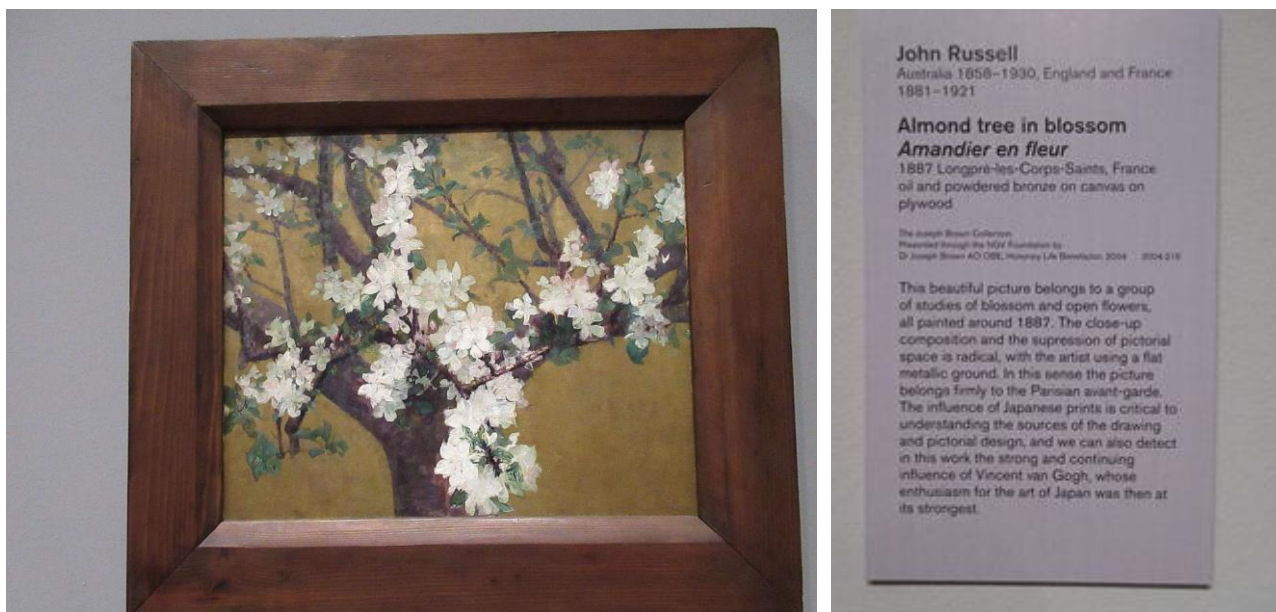
出張期間の季節では現地は夏。昼は暑い時で 30℃を超え、朝晩は 15℃前後と温度差が大きい。湿度が低いいためか 30℃を超えていても日陰に入ると涼しく快適。

1 月が 1 か月の夏休みのため、この時期はちょうどビジネスや学校が動き出す時期。次年度の計画を作る時期でもあり、訪豪タイミングとしては悪くない。

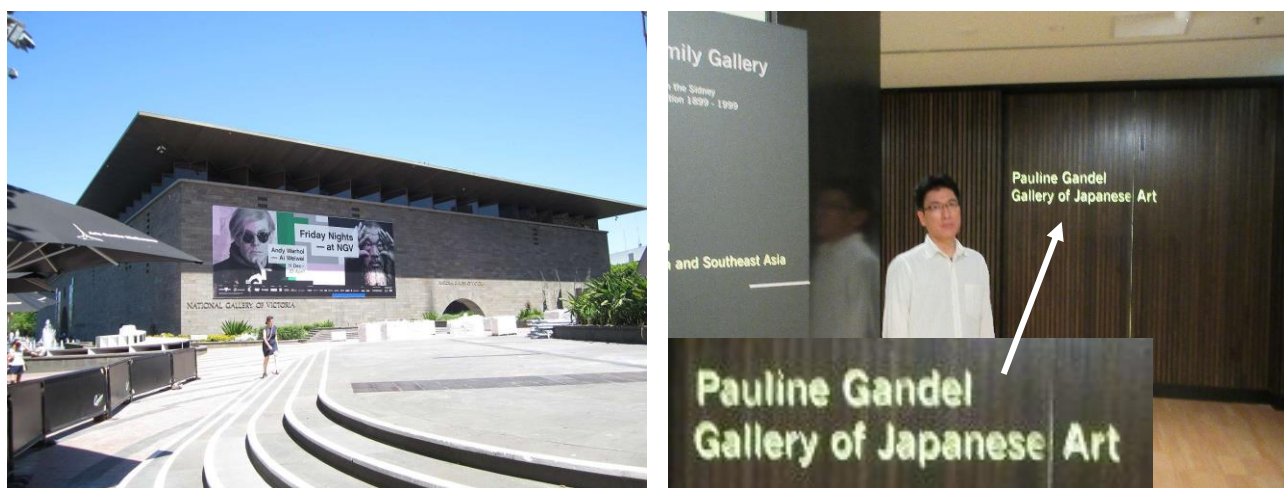


2月7日(日)ビクトリア美術館下見

- ビクトリア美術館（National Gallery of Victoria、NGV）を見る前に、歩いてすぐのイアンポッターセンター（Ian Potter Centre）を見学。現代美術の美術館で、アボリジニアートも含まれる。あらかじめギッシュ会長からうかがっていたジョン・ラッセル（John Russell）の絵画を発見。確かに日本画の影響を多大に受けているように見える。最初に目にしたとき「なんでここに日本画があるのだろう？」と思った程、他の絵とは異なっていた。



- 続いてビクトリア美術館の見学。徒歩で5分もかからない。早速日本美術の展示しているコーナーポーリーン・ガンデル・ギャラリー（Pauline Gandel Gallery of Japanese Art）へ。



ビクトリア美術館の外観。アンディ・ウォーホールとアイ・ウェイウェイのコラボレーション企画を行っていた。



Pauline Gandel Gallery の展示内容。

2 月 8 日(月)ビクトリア州芸術省, 日本総領事館

Creative Victoria

ビクトリア州芸術省（Creative Victoria）でのミーティング。同省は芸術だけでなく映画、デザイン、ゲームに至るまでビクトリア州内の「クリエイティブなもの」を一手に引き受ける窓口となっている。

- 同省の担当者、責任者と顔合わせをする。
- 25 点の寄贈絵画のこれまでの経緯をギッシュ会長が説明。常設展示に向けた協力を要請する。
- 同省は常設展示に向けたこのプロジェクトへの具体的な参加を要望してくれた。



右端が芸術省担当者でありキーマンのスチュアート・クープ（Stuart Koop）氏、中心にギッシュ会長、左にレスリー・キーホー（Lesley Kehoe）氏、羽鳥、霧生

日本総領事館

- 羽田恵子 在メルボルン日本国総領事らと顔合わせ。ギッシュ会長、キーホー氏からこれまでの経緯を説明。
- ポーリーン・ガンデル（Pauline Gandel 著名な日本美術コレクター）氏が合流。
- ギッシュ会長からキーホー氏に松岡朝賞の授与。



左からガンデル氏、羽田恵子総領事、キーホー氏、ギッシュ会長、霧生、羽鳥

Lesley Kehoe Galleries

キーホー氏のギャラリーにお邪魔する。現代日本美術の作品展示。現在は次の展示に向けて作業中。作業を手伝う息子さんのバイロンさん（日本美術のアーティスト）とお会いする。



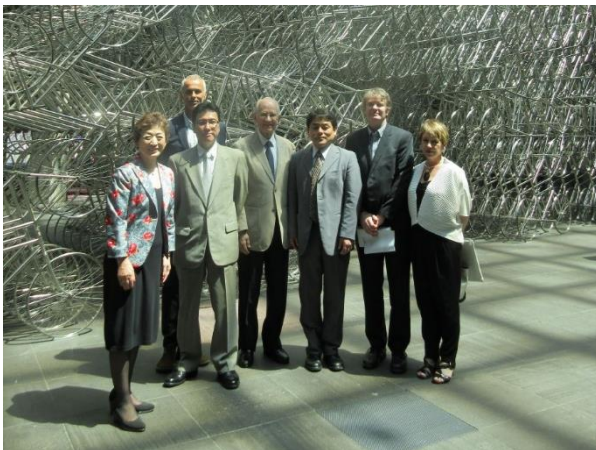
右端がバイロンさん

2月9日(火)ビクトリア美術館、ガンデル私邸

ビクトリア美術館

ここには寄贈された25点の日本画が「眠る」。同美術館の倉庫に保管されており、常設展示はされていない。

- ビクトリア美術館学芸員のウェイン・クロザーズ（Wayne Crothers）氏のアテンドによるポーリーガンデルギャラリーの案内。
- 25点の絵画の実物の確認。学芸員の研究室に並べてくれていた。作品の保存状態は良好で、色も鮮やかなままであった。
- 館内のカフェでクロザーズ氏、同館責任者、芸術省のクープ氏とミーティング。



右から2人目が学芸員のクロザーズ氏

ガンデル私邸

- ガンデル氏の邸宅にお邪魔する。同行者はキーホー氏、羽田総領事。

- 松岡朝賞の授与。1 名は 2012 年の展示イベントで現地責任者を務められたダニエル・マコーワン (Daniel McOwan) 氏、もう 1 名はガンデル氏。
- 続いて邸宅内にある、地下美術館を見学。漆物を主にしており、ほかに甲冑、馬具、面、香合わせなどが詳しい説明とともに展示されている。ガンデル邸を訪れる VIP 達にこれらのコレクションの展示を通して「日本文化や歴史、芸術、職人たちの技」を伝え、理解の促進をはかっている彼らに対して頭が下がる思いがした。



賞状を持っている左側がマコーワン氏、右がガンデル氏

2 月 10 日(水)メルボルン大学、日豪プレス

メルボルン大学

- メルボルンデザイン学校 (Melbourne School of Design、MSD) の見学。ここは最先端デザインの建築物で、学生が実習を行う設備が整っている。最上階には著名な日本人デザイナーの設計した「日本間」がある。責任者のアンドリュー・ミドルトン (Andrew Middleton) 氏によるアテン

- 大学内にある美術館イアンポッター美術館（Ian Potter Museum）の見学。日本美術への理解が深い2名の学芸員の方々にアテンドしてもらう。
- 大学迎賓館（University House）でランチミーティング。



左の写真がミドルトン氏



日豪プレス

- 日豪プレスからのインタビューをギッシュ会長が受ける。月刊の日本語フリーペーパーで本社はシドニーにある。在住日本人の読者は多い。記者は大木和香さん。事前に渡してあった資料をかなり読み込んできていて関心の高さがうかがえた。次回の3月号にインタビュー記事を組みたいとの意向。



2月11日(木)ちょっとカンガルー、帰国へ

予備日としてとっておいたこの日、ギッシュ会長が一足先に帰る夕方の飛行機の時刻に合わせ、ショートトリップを敢行した。行先は車で1時間ちょっとの動物園ヒールズビル・サンクチュアリ（Healesvill Sanctuary）、羽鳥さんが好きなカンガルーを見に。

タクシーの代わりにタクシーより安くて便利だとキーホー氏から教えてもらったUber（ウーバー）という配車システムを使って個人の車をチャーターした。

11時過ぎに Healesvill Sanctuary に到着。タイムリミットの1時までの間、キーホー氏お勧めのワシのショー、生カンガルー、生エミューを見た。慌ただしかったが、3人とも十分楽しんだ。



暑くてだれているカンガルーたち。この後別のカンガルーのおなかから子供カンガルーが飛び出すところを見ることができた。決定的瞬間に立ち会えてラッキーなわれら。

ギッシュ会長を送り出した後、霧生と羽鳥も帰国の途に就く。夜8時、メルボルン空港で帰国便の情報を見る。出発が3:30となっている！ただでさえ0:55と遅い深夜便なのに、さらに2時間半以上も遅れるとは。待ち時間が永遠に感じる。

2月12日(金)帰国

深夜1時、出発まであと2時間半もある。ここでちょっと面白いことが。オーストラリア政府の観光局のおばさんがアンケートを取りに来た。こんな時間に…？暇つぶしにと安請け合いしてしまったが最後、質問はかなり細かくて30分くらいかかった。オーストラリアに来てどのくらいお金を使ったかとか。我々まじめだからきちんと計算して答えましたよ。

深夜3:30ようやく離陸。成田に到着したのが日本時間で午後1時。安堵するも眠すぎる。ここから自宅までが長い…。

まとめ

寄贈25点の常設展示に向けては今後プレーヤーになるべき関係各機関との顔合わせができた。関係各機関の出席者、およびその方々の表情、言動などからそれぞれの立場を感じ取ることができた。実際の交渉までは至らなかったが、キーとなる担当者との信頼関係を築いたことで、交渉のきっかけとなる第一歩が踏み出した。

ガンデル氏、キーホー氏との交流は当初の目的を一定あるいはそれ以上に達成することができた。今後現地で自律的に動ける協力者として一層の信頼関係を保つことはもちろん、日本側で協力できることを確実に言い、サポートしていかなければならない。

松岡朝賞に関しては、功労者として今後の活躍の期待も込めてしかるべき人に授与することができた。受賞した本人たちが大変喜んでくれ、会長の感動的なスピーチが涙を誘うこともあり、授与は大成功だった。訪豪前および授与直前の準備（賞状の作成、額縁や梱包材の調達など）での苦労が報われた。

今回はじめてメディアへの積極的なアピールを行った。事前の（資料送付などの）努力もあってか担当記者にはずいぶんと興味を持ってもらうことができ、会長へのインタビューはとてもスムーズに緻密に運ぶことができた。どのような記事になって表れるか期待したい。

Melbourne 2016 — Looking to the Future

It was just 10 years ago that I represented our Society at the opening of the Special Exhibition of the 25 Nihonga at Queen's Hall in the Victoria State Parliament House. That exhibition was the result of efforts that began a decade earlier in 1995 to recover the "lost works" which had been housed for over 20 years in the Port Authority of Melbourne. This rediscovery came about through the persistent inquiries made by Matsuoka Yuko, and was followed up by a trip to locate the works by our former President, Prof. Ohtani Shunsuke in 2004; and then the visit to Japan in 2005 by the then Victoria State Minister for the Arts, Mary Delahunty, who was shocked to learn from Matsuoka Yuko the shameful way the works had been treated in spite of the original interest and

intentions of her mentor, the former Victorian Premier, Rupert J. Hamer. The Honourable Minister Delahunty subsequently make arrangements for the 2006 Exhibitions at Queen's Hall and two other museums in Melbourne.

My second visit was in 2010 with our Executive Director, Samejima Muneaki, to finalized a Memorandum of Understanding with Arts Victoria regarding the storage and utilization of the 25 art works for deeper cultural understanding and as a means of promoting educational exchanges between Japan and Australia.

And then in 2012, a major Exhibition was held to observe the 50th Anniversary of the Hamilton Art Gallery where Daniel McOwan served as Gallery Director. The exhibits in 2006 and 2012 had both included a Nihonga Workshop by Prof. Hojo Masatsune which helped to gain a deeper understanding of the Japanese art tradition.

But upon returning to Japan after each visit, our Society received no further communications and became concerned about how we could build firmer bridges that would lead to creative interchanges in the future, based upon a mutual appreciation of the different treasures represented by each culture.

Variety of Purposes:

The 2016 delegation went to Melbourne with a variety of purposes. First, we wanted to by reassured that the works were being held in proper storage. Secondly, we needed an update on how the works were being displayed at the NGV. And thirdly, we needed to make contact with the new staff in the Victoria State department that had absorbed the former Arts Victoria in a restructuring of all the State Ministries. With the retirement two years ago of Michael Nation, who had served as the escort for Lady Asa in 1977 and continued to serve as our link with Arts Victoria until last year, we needed to renew our official ties with the Victorian government offices.

And also, with the appointment of Ms. Keiko Haneda as the new Japanese Consul-General since our last visit, it was important to gain her understanding of our past involvements with the people of Australia and cooperation for our future activities.

Reflections:

In reflection, the 2016 official visit was successful in renewing all of these contacts, and helped in taking the first steps into the future. It was especially important to be accompanied by two of our newer Executive Directors, Mr. Kiri Atsushi and Mr. Hatori Shuzo, who were able to meet several of the key persons in Melbourne who showed their interest in working together as members of the third generation in both countries.

The final goal of this visit was to gain the cooperation of someone in Melbourne who could act as our "local representative" and follow-up after our visits. This was what had been lacking following our other visits during the past decade. Fortunately, we were able to gain the cooperation of Ms. Lesley Kehoe, who had been involved in all our prior visits and is perhaps the best informed person on the Japanese art scene in Melbourne. She had been the key person in making arrangements for the 2012 Hamilton Exhibition including the backing of Pauline Gandel, whose world-renowned collection of Japanese lacquer has been curated by Ms. Kehoe.

2016 Asa Matsuoka Award:

In recognition of their past contributions to an understanding of both Nihonga and Japanese culture, as well as their cooperation in working together in building bridges to the future, it was my honor to present the 2016 Asa Matsuoka Award on behalf of our Society to the following three persons:

Ms. Lesley Kehoe, on February 8, 2016, at the Japanese Consulate-General.

Mr. Daniel McOwan and Mrs. Pauline Gandel, on February 9, 2016, at the John and Pauline Gandel Residence in Melbourne.

The Japanese Consul-General, Haneda Keiko, was present at both ceremonies, as well as the other two members of our delegation, Mr. Kiri and Mr. Hatori. (Please refer to their reports for more details of our visit.)

Future Educational Interchange:

Our final day was spent at the campus of the University of Melbourne where we were greeted by staff of the newly renovated Japanese Room and the university related Ian Potter Museum. It was encouraging to listen to the positive ideas shared concerning future educational interchange and cooperation that will bring the next generations to a deeper understanding of each other in fulfilling the dreams of our founder, Lady Asa Matsuoka, who devoted her life to the benefit of the children of the future.

George W. Gish, Jr.
ICAIS Society President

February 20, 2016

2016 年メルボルンにて—未来を見据えて

今からちょうど 10 年前に、ビクトリア州会議議事堂の Queen's Hall「女王の広間」で催された 25 点の日本画の特別展覧会のオープニング式典に、私がこの会を代表しました。その展覧会を開くことができたのは、その 10 年前の 1995 年¹に始まり、メルボルンの港湾事務所に 20 年間以上放置された、それらの「失われた作品」が取り戻されるまでの努力の結果でした。この再発見がなしたのは、松岡裕子氏の粘り強い探求と、2004 年に当会の前会長大谷俊介氏の「所蔵場所探しの旅」による追跡調査があったからです。その後ビクトリア州芸術省の大臣 Mary Delahunty が 2005 年に訪日した際、松岡裕子氏から 25 点の作品に対し寄贈時の想いに適切な処置がなされないままであり、彼女の上司であった Rupert J. Hamer 元ビクトリア州知事の意志に反したものであるということが分かりショックを受けたそうです。その後 Delahunty 大臣閣下は、2006 年に展示会を Queen's Hall をはじめ、他のメルボルンにある 2 つ美術館で開くよう取り計らってくれました。

2 回目の訪豪は 2010 年、理事の鮫島宗明氏とともに、「Memorandum of Understanding」を完成させるために行われました。より深い文化の理解のため、および日豪間の教育的交流を促進する機関として、Arts Victoria には 25 点の保管と扱い方に注意を払ってもらうことを書き込んだものです。

そして 2012 年、Hamilton Art Gallery の 50 周年記念として大きな展覧会が催されました。そこでは Daniel MacOwan がギャラリー責任者として務めました。2006 年と 2012 年の展覧会ではともに北条正典教授による日本画のワークショップが開かれました。北条教授は日本の伝統美術をより深く理解できるよう教えてくださいました。

しかしこれらの訪豪から帰国した後、当会はこれ以上の連絡（コミュニケーション）を先方から受け取ることはありませんでした。そして、どのようにしたらより強固な結びつきを築けるのか案じるようになりました。その結びつきとは、それぞれの文化を代表する、素晴らしい異なる財産に対する相互の賞賛と感謝(appreciation)に基づいて、将来に創造的な交流を導くものです。

様々な目的：

2016 年の出張者たちは様々な目的を携えてメルボルンを訪れました。第一は 25 点の作品がきちんとした収蔵庫に収められていることを確認すること。第二はビクトリア美術館でどのように作品が展示されているのか現状把握すること。第三はビクトリア州内の全大臣の再構築の中で前 Arts Victoria を吸収した州のしかるべき部署の新しいスタッフとの会合を持つことでした。1977 年に松岡朝にエスコートし、昨年まで Arts Victoria とのつながりを取り持ってくれていた Michael Nation が 2 年前に退職したことを受け、当会とビクトリア州政府の公式な連携を一新する必要があったのです。

¹訳者注：メルボルンの港湾事務所にあるという情報があった年。

そしてさらに新しく着任した日本総領事の羽田恵子氏との面会では、当会のこれまでのオーストラリアの人々との関わりと今後の活動への協力について理解を得ることが重要でした。

感想：

感想としては、2016年のこのたびの公式訪問は、すべてのコンタクト先を一新（更新）したということにおいて成功でした。そして未来への第一歩を踏み出す足がかりとなったのです。特に重要なことは新しい2名の理事（霧生敦史と羽鳥修造）を伴って行ったことです。彼らは、両国の第三世代の当事者として一緒に活動する価値があることを示したメルボルン側のキーとなる人物たちと顔合わせができました。

この訪問の最終目的は、当会の「現地代表」として活動でき、我々が帰国したのちにフォロー（追跡チェック）できるメルボルン側の人間との協力体制を得ることでした。このことは、過去10年間のほかの訪豪に欠けていたものをフォローしてくれます。幸運にも Lesley Kehoe 氏の協力を取り付けることができました。彼女はすべての主だった訪豪に参加してくれた、おそらく日本美術においてはメルボルンで最良との呼び声の高い方です。Pauline Gandel 氏の支援を受けた2012年のHamilton 展覧会の手配と準備においてまさにキーパーソンでした。Pauline Gandel 氏の世界的に名声の高い漆塗りのコレクションは Kehoe 氏の主事によるものです。

2016 年松岡朝賞：

日本画と日本文化の理解に貢献し、また、未来への懸け橋の構築と一緒に汗を流すことで協力してくれたと認め、2016年松岡朝賞を授与したことを光栄に思います。受賞した下記の名の方は当会を支援してくれました。

Ms. Lesley Kehoe、2016年2月8日、在メルボルン日本総領事館にて

Mr. Daniel McOwan および Ms. Pauline Gandel、2016年2月9日、メルボルンにある Gandel 夫妻のご自宅にて

日本総領事の羽田恵子氏はどちらの式典にも出席されました。出張者2名、霧生、羽鳥両理事も同じく出席しました（詳細は彼らの出張報告をご覧ください）。

未来の教育的交流：

公式スケジュールの最終日はメルボルン大学のキャンパスを訪れました。私たちは「日本間」を新しく復元したスタッフと Ian Potter Museum の関係者から歓迎されました。未来の子供たちの幸福のためにその生涯をかけた当会の創始者松岡朝の夢を果たす使命の中で、お互いにより深く理解することを次の世代にもたらす未来の教育的交流と協力体制を考えていくこと、それを共有するプラス思考のアイデアを聞いて私は勇気づけられました。

2016 年 2 月 20 日
海外と文化を交流する会
会長 George W. Gish

(翻訳 霧生敦史)

期間 : 2016 年 2 月 6 日～12 日

出張者 : 会長 George W. Gish、理事 霧生敦史、理事 羽鳥修造